

家事を共有する「地域食堂」設計

2年連続優勝の横須賀工高



(左から)上原会長、濱田さん、石橋さん、西上床さん、日置賢司校長、國島教諭



応募作品の模型

神奈川県建築士会(上原伸一会長)は16日、2024年(第15回)の高校生の「建築甲子園」神奈川県大会で優勝した横須賀工業高校建設科(建設研究部)の濱田真里さん(3年生)、石橋悠大さん(2年生)、西上床彩奈さん(1年生)の3人を表彰した。昨年に続き、2年連続の優勝となった。応募作品のタイトルは「食

神奈川士会 建築甲子園県大会で表彰

堂洗濯足場のオーナーレジデンス「スチレンボードをカンスー横須賀市・みんなの食卓・洗濯・くつろぐ居場所」。1年生の時から毎年大会に参加し、チームの中心的役割を担った濱田さんは「アパートと食堂を設計した。いろいろなイメージした」と話す。大会を通じて成長できたとも語り、将来設計に携わることが目標に、神奈川県建築学部に進学することが決まったという。

主に模型づくりを担当した石橋さんは「敷地の長さが違って点など、良く見せるよう工夫した」とし、西上床

「スチレンボードをカンスーで切るのが初めての経験で難しかったが、楽しかった」と振り返った。

表彰状を手渡した上原会長は「模型づくりでも壁に色を付けたり、段ボールで屋根を構成するとよりリアルになる。BIMなどの新しいツールも勉強して見せるテクニックを身につけてほしい」と助言した。

放課後や夏休みを通じて作品づくりを指導してきた國島かほり教諭は「建築系の授業が少ない中、こうして優勝できたのは素晴らしいこと」と生徒たちの奮闘をたたえた。

